【令和2年度　学校関係者評価委員】

委員	氏名	所属	役職
委員長	鎌田　佳奈美	摂南大学看護学部	学部長
委員	木下　昌美	特別養護老人ホーム　ファヴォーレ	施設長
委員	松村　到	近畿大学医学部	学部長
委員	赤尾　幸恵	近畿大学病院	副病院長
委員	上野　純子	近畿大学附属看護専門学校同窓会　礎	会長
委員	橋本　克己	株式会社近大アシスト	代表取締役社長

2020年度　近畿大学附属看護専門学校
学校評価

1.評価の概要と今後の課題

基準1.　教育理念・目的・育成人材像
【評価の概要】 　2020年度は教育目標（ディプロマポリシー）を見直し、改めて育成したい学生像を教員間で共有している。今後その目標を達成するためには、学生自身に目標を意識させることに注力する必要がある。 　また、学校内だけでなく、実習施設に対しても学校が掲げる理念・目的・目標を浸透させる必要がある。そのためには、ディプロマポリシーを達成させるためのカリキュラムポリシーの明文化とそれに合わせた教育方法の具体化が求められる。
【今後の課題】 ・ディプロマポリシーに沿ったカリキュラムポリシーの構築。 ・各施設への教育理念・目的・目標の浸透
基準2.　学校運営
【評価の概要】 　運営方針として示されるアクションプランに基づき、活動計画の立案・遂行・評価は実行されている。しかし、昨年度からの課題であった委員会運用規程がまだ策定されていないため、早急に委員会規程を策定すべきである。 　事業計画は、具体的な数値目標を設定すべきである（例えば受験生の増加率や退学、休学の学生数など）。また運営方針は人・モノ・金をどう使って教育の充実を図っていこうとするのか、数年先を見据えていくことも必要である。 　人事に関しては、看護教員を満たす規定だけでなく、近畿大学附属看護専門学校としてどのような人材を求めているのかを明確にすることも必要である。
【今後の課題】 ・委員会規程の策定 ・中・長期的な学校運営構想を数値目標設定
基準3.　教育活動
【評価の概要】 　教育目標毎に学生の達成状況の評価を行い、3年間の教育内容としては一定の効果がみられているが、学生からみた学校のカリキュラム全体の評価を受けることも必要。授業評価は各教員の教育力の評価となる。そのため、教員の教育力の向上に活用できると考える。また今後、学生の成績評価の妥当性の検証についても検討していく必要がある。
【今後の課題】 ・カリキュラムに対する学生や卒業生の意見抽出 ・教員の教育力向上に向けた研修計画の立案（学内研修の検討）

基準4.　学修成果
【評価の概要】 　就職率は看護、助産学科とも100％であった。卒業生の75％は近畿大学病院への就職であり、特定機能病院である近畿大学病院に就職できる人材の育成には貢献できたといえる。 　また進学率に関しては、例年５％前後で推移しており、2020年度も4.9％と同様の数値であった。しかし、2020年度の学生からは助産学科が募集停止し、内部推薦がなくなったことで、外部の試験で同じ程度の進学率であったことは教育の評価として活用できると考える。 　2020年度はコロナ禍での実習、国試対策であったが、国家試験は看護学科が98.8%、助産学科は100％の合格率といずれも全国平均を上回る結果であったことも評価できる。ただ、実習における評価として福祉施設での実習をどのように考えているのか知りたいとのご指摘があった。 　さらに退学率は2020年度2.0％、休学率も2.0％であり、これも例年とあまり変わらず、コロナ禍の影響はあまりなかったといえる。
【今後の課題】 ・卒業生の就職先からの評価を元にした教育成果の把握 ・臨地実習における福祉施設実習の目的の明確化と達成度の把握
基準5.　学生支援
【評価の概要】 　学習・進学・就職に関しては、教科外活動として学外の専門職の協力を得て国家試験対策講座や就職支援講座の開催、成績に基づく個別面談、生活・学習指導や学力強化プログラムを実施し、必要時に保護者への通知・連絡、2018年度から実施している１・２年次の保護者説明会は2020年度、コロナ禍のためオンラインで実施。 　健康面では、専任教員による日常的な相談対応のほか、学校健診結果に基づく校医への相談や近畿大学病院の専門外来によるフォローアップ、病院の臨床心理士によるカウンセリングが受けられる支援体制が整備・活用されている。但し、初回のみ教員から申し込むシステムとなっており、ほとんどが学生からの申し出ではなく、教員の勧めによって受けているのが現状である（2回目以降は直接申込ができる）。このシステムでは本来の相談システムとは言い難いため、対応が必要。
【今後の課題】 ・スクールカウンセラーの派遣（非常勤） ・学習・就職困難学生への個別対応体制の強化
基準6.　教育環境
【評価の概要】 　2020年度はコロナ禍であったことから、オンライン授業の設備、感染防止対策を講じた教室環境を整えた。また昨年度課題となっていた什器の耐震補強はほぼ終了している。ただし、インターネット環境はすべて有線であるため、使用できるパソコンやデバイスが限られてしまうこと、ハイブリット授業にしたい場合、学内の学生はパブリックビューで双方向授業になりにくいことなどから、Wi-Fi環境の整備の必要性を訴え、ようやく2021年度夏に整うこととなった。また2021年度入学生から電子教科書を導入予定。感染対策と教育効果を踏まえた教育ができるようになると考える。 　学外実習の実施方法については、臨地実習要項に総括的な内容を掲載するとともに、実習の領域に応じて必要なマニュアルを要項として整備している。
【今後の課題】 ・学校敷地内に休憩・食事のためのスペース設置を検討

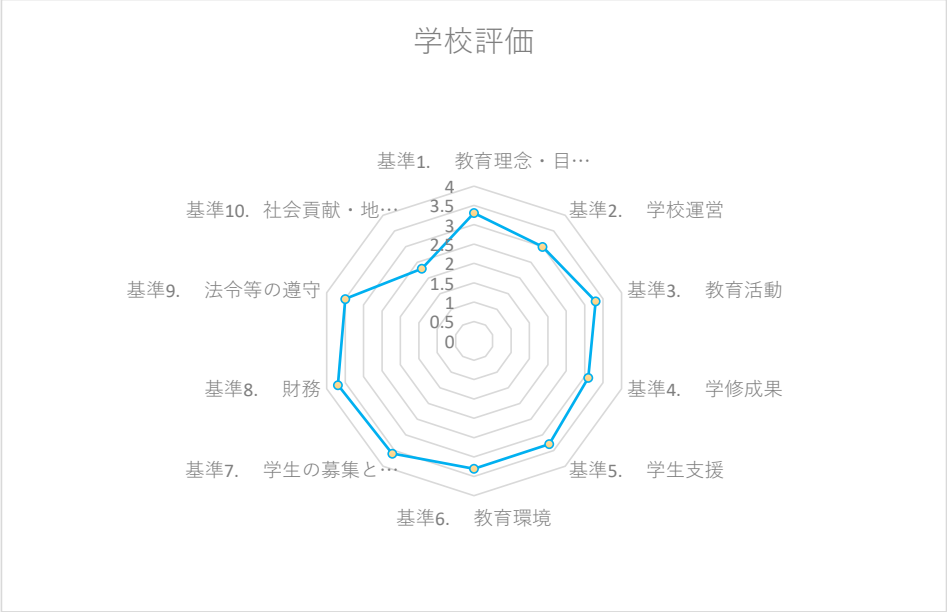
基準7.　学生の募集と受入れ
【評価の概要】 　2020年度は新型コロナウイルス感染症により対面でのオープンキャンパスは開催できず、オンラインによるオープンキャンパスと個別の学校見学、予備校講師による受験対策講座のみ実施。校内の立入を最小限にした広報活動となった。受験者数は僅かながら増加したが、大学との併願学生の動向が読めず、入学生が定員数を割る結果となった。このことから大学との違いを踏まえて当校の魅力発信は課題であると考える。また入試制度の見直しなど検討が必要ではないか（試験科目の選定やAO入試の導入など）。 　入学選考および学納金の納入は適切に対応している。
【今後の課題】 ・入試制度の検討（入試ごとの科目設定やAO入試導入など） ・コロナ禍におけるオープンキャンパスの実施 ・当校（専門学校）の魅力発信
基準8.　財務
【評価の概要】 　財務基盤を安定させるために中長期計画を策定している。 　学園の経理規程に則り適切に予算執行のうえ、財務帳票を作成し、ホームページに財務情報を公開している。
【今後の課題】 ・志願者数を上げ収入を増加する必要がある。
基準9.　法令等の遵守
【評価の概要】 　看護師養成所運営ガイドラインに則り、教員数の確保、環境整備を努めており、学校の教育・運営に関する情報は教育要項ならびにホームページに公開されている。権利擁護は近畿大学ハラスメント防止ガイドラインに基づき、学生への周知ならびに対応が図られている。但し、臨地実習やソーシャルネットワーク使用における個人情報保護ならびにハラスメント被害防止に対する認識には個人差がみられ、継続的な指導の強化・徹底が必要である。また、発生時の対応のために関係者会議を頻回に実施している状況があるため、迅速な対応のために手順の整備が望まれる。
【今後の課題】 ・ハラスメント対応チャートの作成 ・教育要項ならびに臨地実習要項への法令遵守関連対応方法の掲載
基準10.　社会貢献・地域貢献
【評価の概要】 　行政や高校など要請があれば対応しているが、学校としてのボランティア活動や社会貢献活動は地域清掃程度。法人内では教室や教材の貸し出し、教員の派遣などを実施しているが、地域にまで広げていない。 　また学生個人のボランティア活動についても把握が十分でない。
【今後の課題】 ・学生の主体的なボランティア活動に向けての制度検討（表彰制度、ポートフォリオでの可視化など）。 ・地域連携に関する検討

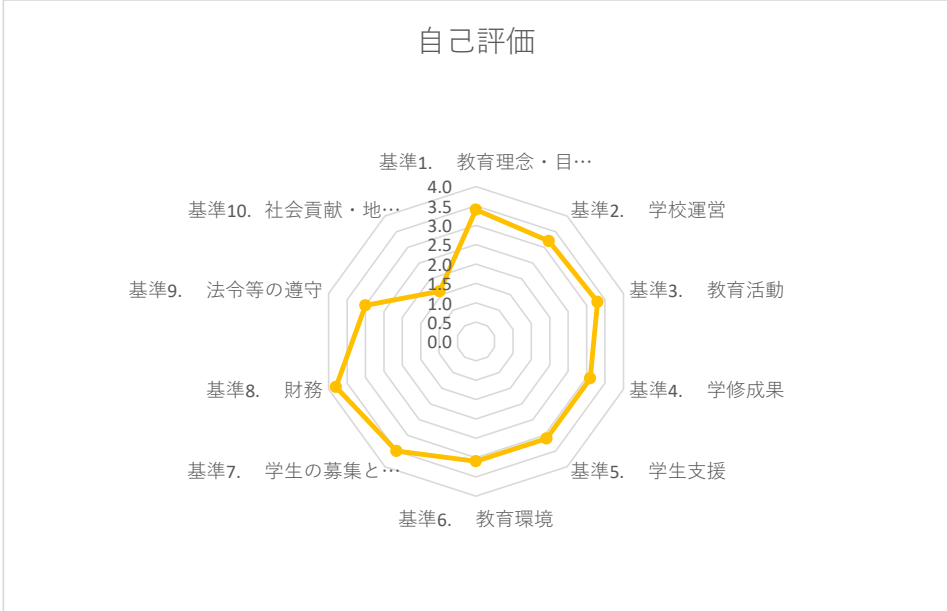
2.　評価結果

評価は次のとおり 数値化した。

適切：4　　大体適切：3　　やや不適切：2　　不適切：1

項目	学校評価平均値	自己評価平均値
基準1.　教育理念・目的・育成人材像	3.3	3.4
基準2.　学校運営	3.0	3.2
基準3.　教育活動	3.3	3.3
基準4.　学修成果	3.1	3.1
基準5.　学生支援	3.3	3.1
基準6.　教育環境	3.3	3.1
基準7.　学生の募集と受入れ	3.6	3.5
基準8.　財務	3.7	3.8
基準9.　法令等の遵守	3.5	3.0
基準10.　社会貢献・地位貢献	2.3	1.6


学校評価
基準1.　教育理念・目…
基準2.　学校運営
基準3.　教育活動
基準4.　学修成果
基準5.　学生支援
基準6.　教育環境
基準7.　学生の募集と…
基準8.　財務
基準9.　法令等の遵守
基準10.　社会貢献・地…
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0


自己評価
基準1.　教育理念・目…
基準2.　学校運営
基準3.　教育活動
基準4.　学修成果
基準5.　学生支援
基準6.　教育環境
基準7.　学生の募集と…
基準8.　財務
基準9.　法令等の遵守
基準10.　社会貢献・地…
4.0
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0